

令和4年度 自立支援・重度化防止施策の目標・評価

タイトル	大間町の介護保険情勢
------	------------

課題
全国平均、類似規模の自治体と比べるとショートステイの給付費が多い。代替の模索が必要。 介護に関する知識、関心を持つ住民がほとんどいない。啓発が必要。

課題解決に向けた取り組み
・ ショートステイの利用が減るような代替の模索。 ・ 介護保険に関する啓発事業の実施。

目標
・ 過去に行った事業や現在行っている事業からショートステイが減るような代替がないか検証する。 ・ 住民に介護への関心を持ってもらい、住民主体サービスの創設等に繋げる。

事業実績（令和4年度実施）
・ 検証したが今すぐにできる代替となるものは難しい。 ・ 介護保険に関する講演 開催数：0回（コロナ感染症により開催できず）

実績評価（令和4年度実施）
自己評価 【○】 当町ではグループホーム、特養が常に入所待機者で溢れている。また老健、有料、サ高住といった介護サービスが無いため、その代替サービスとしてショートステイが使われている。（既存のサービスで代替しているのは他市町村でも見られる傾向である。）ショートステイの代替となる訪問や通所サービスは現在のところ実施事業者の新規参入もなく、現在実施している事業者も規模拡大をする予定はない。今現在、2025年問題として団塊の世代の利用者増が見込まれているがその後の利用者は減る一方である。いずれは高齢者人口も減り利用者確保に苦慮することが見えているため、安易に新規参入や規模拡大をできないことがわかった。また、介護人材の不足も全国的な問題となっており、先にそちらを解決する必要がある。